

試行錯誤の「寺島メソッド」を振り返って

舞鶴市立城北学校 近藤 秋人

- 1 はじめに
 - 2 2学期を振り返って
 - (1) リズム読み
 - (2) 視写
 - (3) 教科書文法ワークシート、教科書本文プリントなど
 - 3 反省と今後に向けて
 - 4 おわりに
- <追記>
- 5 3学期小中一貫教育で実施した英語の授業で…
 - 6 ALT との会話で

(別紙資料)

- ・(別紙 1) Grandfather' s Clock
- ・(別紙 2) 視写用プリント
- ・(別紙 3) 練習用プリント
- ・(別紙 4) 教科書文法プリント
- ・(別紙 5) 教科書本文プリント

1 はじめに

昨年9月、私はある1冊の本と出会いました。それは『寺島メソッド英語アクティブ・ラーニング』です。当時同じ学年で英語を担当していた教師がアクティブ・ラーニングに関する書籍を購入していたので、私も何か購入しようと Amazon で何気なく検索している時でした。『寺島メソッド英語アクティブ・ラーニング』のレビューを見た時の衝撃を今でも覚えています。特に、今までの活動ありきのアクティブ・ラーニングではなく、どうすれば生徒に本当の力をつけることができるのか、何を大切にしなければならないのかが明確に理論立てて整理されています。本が到着してそうそう、一気に読み上げました。読み終わった瞬間、ある思いが込み上げてきました。1つは、今までの12年間の自分自身の授業が、何の根拠もなく実施されていたことへの反省。そしてもう1つは、その教科指導の犠牲になってきた生徒への謝罪の気持ちでした。とてつもない虚無感が私を襲いましたが、それと同時に、この寺島メソッドに出会えたチャンスを絶対に逃してはならないという強い気持ちが芽生えたのです。その日から寺島メソッドを調べる日々が続きました(Googleの検索履歴には寺島先生の名前が大量に残っていました)。私は自分の興味があることにとことん突き進む傾向にあります。しかしこれほどまで積極的に動いたことはありませんでした。書籍を購入するため、何とかあすなろ社の電話番号を知ることができました。何も知らずにあすなろ社に連絡を取り、書籍の購入に関わって初めて、私が電話で話をしていたのが寺島先生だと知ったときは、大変失礼なことをしてしまったと思うとともに、寺島メソッドの発案者である寺島先生に出会えたことにとっても感謝しました。その後、ワークショップに参加、個人的にも寺島メソッ

ドを教えていただき、今回の2学期を振り返ってのレポート発表に至りました。私自身まだまだ寺島メソッドの理論を実践できず、これまで素晴らしい実践をされてきた先生方の前にして、報告として足るものがなく心苦しいのですが、どうぞよろしく願いいたします。

2 2学期を振り返って〔2年生2クラス（71名）、1年生2クラス（64名）〕

私は今年度、第1学年の学年主任をしています。同じ学年にはもう一人女性の英語科教諭（井関先生）がおり、年度当初に寺島メソッドについて説明すると、「全てにおいて納得できます。」「今まで悩んできたことに答えが出た気がします。」と全面的に協力してくれることになりました。井関先生の授業の持ち方も私と同じで、1年2年を私たちで半分ずつ担当することになりました。（しかし、本来であれば城北中学校の英語科の定数は4人ですが、講師が見つからないという理由で、3人で回しています。）基本的には私が2年生の授業準備、井関先生が1年生の授業準備をすることになっています。

授業の進め方は、①リズム読みを10分～15分、②視写を10分～15分、③教科書の文法ワークシート or 教科書本文記号づけプリントなどを基本としています。2学期は両学年とも、リズム読みと視写は同じ内容で行いました。まずリズム読みから報告します。

（1）リズム読み

2学期中間テストまでは典型教材である House のリズム読みを行いました。グループは3人～5人で、自分たちで決めさせました。1学期には Hole のリズム読みを行っていたので、生徒たちはリズム読みを楽しみにしていました。しかし House の英語の量を見たときには、「先生、これは絶対無理やって。」「やる気がなくなったあ。」と弱音を吐いていた生徒が多くいました。しかしそれは杞憂に終わります。やはりよくできた教材です。「先生、これって、後半は前に出てきたことの繰り返しやん。」と気づくやいなや、何も指示をしていなのに、ペンを叩き、リズムをとって練習し始めました。（寺島メソッドはやり方がわかると、自分で前に進んでいける理論なのだと思改めて気づきます。生徒の学びが止まらないのです。あまりにも熱中するため、教師の指示が良い意味で通らなくなります。）テストについてはある程度の量をまとめて教師に発表することにさせました。新情報はゆっくりと、旧情報は速くリズムを取ることも意識させました。最終的には、最後の段落を暗唱することが目標です。両学年で同じことを行っていますので、2年生は「1年生に負けてなるものか。」と頑張り、1年生は「2年生に勝ちたい。」と頑張りました。1年生のあるグループは2年生よりも早く暗唱まで達成することができました。

2学期中間テスト後は、大きな古時計（Grandfather's Clock）のリズム読みに挑戦させました。（別紙1）古時計ならだれもが知っている曲であり、文法内容においても中学生レベルであると感じたからです。1番～4番までの歌詞をリズム読みで練習させ、1番→2番→3番→4番という形で発表させました。次はできるだけ速く読むテストをさせ、最終的にはそれぞれを暗唱させました。この時も House と同じように、1年生と2年生の意地とプライドの戦いが展開されました。ある兄弟は、リズム読みの進度を巡ってけんかになったようです。弟の方が進みが早いことを自慢して口論になったそうです。兄はその後「負けられない」

と躍起になって練習していましたが、軍配は弟に上がりました。弟は家でもずっと兄に見つからないように練習し、暗唱まで達成しました。この生徒はあまり学力が高くありませんが、リズム読みを通して自信をつけ、「先生、次のリズム読みを早くしたい。」と話してくれました。

(2) 視写

House と古時計の両方で視写を実施し、それぞれ 10 回分視写を行い、後半の 5 回分を最後までやり切らせて提出させました。時間は基本 10 分で行いました。生徒は視写は疲れるという理由であまり好きではないと言いますが、やり始めると止まらなくなる実感を持っています。House の視写は新情報のみをそれぞれ書かせ、最後の 12 番は全て書かせました。古時計は、1 番～3 番はサビの部分を除き、4 番は全て書くようにさせました。Hole の時と比べ、House は視写する量が増えますし、古時計はさらにその量が増えます。生徒は「絶対無理！」と言い放っていましたが、特に 2 年生は 10 分で終わらせきる生徒が回数を追うごとに増えていきました。視写は前回よりも今回伸びたことが一目瞭然でわかり、次の目標を確認しやすいことが生徒のやる気につながっています。

視写用のプリント（別紙 2）は、どこに何を書けばよいか分かるように番号をつけています。また単語と単語の間を意識させるために、1 文字分がわかるようにもしています。しかし、すでに単語と単語の間がしっかり認識でき、字形も整っている生徒にすれば煩わしい場合もあるようです。

(3) 教科書文法ワークシート、教科書本文プリントなど

文法については記号づけを行い教えています。これまでの 12 年間とは大きく違い、記号づけをすることで文法指導にも一貫性が持てるようになりました。英文における心臓部は動詞であることを意識させることで、生徒の理解も断然進んでいるように感じています。

1 年生では現段階で、助動詞 **can**、現在進行形まで進んでいます。動詞を左半マルと右半マルに分けることができれば、否定文や疑問文を簡単に作ることができます。別紙 3 のプリントをご覧ください。基本文には英文が書かれており、その英文に自分で動詞にマルをさせます。それをもとに日本語、否定文、疑問文と進んでいきます。このプリントを通して中間テストが 1 桁だった生徒が、期末テストでは 70 点を超えるまでの成長を見せてくれました。このプリントだけで点数を取ったのではなく、このプリントを通して、できなかったことができるようになった自信が学習意欲につながったのだと思います。最近では、「このプリントは簡単だから、もっと難易度をあげてほしい。」という生徒の声まで出てきました。その時には日本語を書いてやり基本文を自分で作る、絵を見せてやり基本文を作るなどさせています。

2 年生も同様に、記号づけによる文法指導を行いました。特に 2 学期の学習内容でいうと（別紙 4）、不定詞や動名詞をスムーズに理解させることができました。to を→で表すことで前後の関係性に着目させると、無理のない日本語にすることができました。名詞的用法などの文法用語を説明する必要は全くありません。また動名詞を指導する際には、「～すること」の意味ではなく、進行形で学習した内容を利用しました。動名詞の基本的な考え方を、-ing

の「～して（いる状態）」として考えさせると、「～している状態を楽しむ」という日本語から、無理なく「～することを楽しむ」という日本語につながりました。今までの学習指導でしたら、-ing の意味をバラバラに教えていたことで、生徒は混乱し、わからない原因につながっていました。しかし寺島メソッドによる考え方で教えると、既習内容を使い、シンプルに教えることができました。

教科書の内容については、両学年とも『魔法の英語』の形をベースにしたプリントを作成し取り組ませています(別紙5)。生徒もこの形に慣れ、配られた瞬間から取り組み始めます。だれもが熱中して取り組むため、教室に静寂が生まれます。課題が終わった生徒から、教師に見せにくる形にしています。早く終わった生徒は、『天空の城ラピュタ』に取り組ませています。

3 反省と今後に向けて

寺島メソッドにより、私自身の教科に関する考え方に自信が持てるようになった反面、まだまだ実践も足りず、寺島メソッドを生かしきれていないと感じています。ほとんどの生徒が授業に前向きに取り組むことができますが、中にはサボってしまったり、途中で手が止まってしまったりする生徒もいます。彼らに英語の幹を育てる重要性を伝えきれていないのだと思います。また、自分自身の力を付けていくためにも、『天空の城ラピュタ』などの自主的な教材も作成しなければならないと感じています。生徒は教科書の内容よりも、『天空の城ラピュタ』などの教材の方が楽しんで取り組みます。生徒が読みたいものを読ませる中で、英語の幹を身につけさせたいと感じています。

3学期は Turnip にじっくりと取り組ませ、セン・マル・センをしっかりと身につけさせたいと考えています。

4 おわりに

12月6日(木)に舞鶴市スポーツ協会指導者研修会で、「城北中学校男子バスケット部 京都府優勝への道のり～小・中学校の「連携」」というタイトルで、講師として話をする機会がありました。舞鶴市バスケットボール協会の取組による競技力向上や、顧問として意識していることを中心に話をしました。私自身の部活動について振り返る良い機会となりました。特に生徒へバスケットの指導をする際、どうすれば競技の特性を伝えることができるのか、どうすればその状況を改善できるのかを常に考える必要があります。振り返りの中で、重要なことに気がつきました。今までの指導でうまく生徒が理解・実践できている時は、まさしく「AさせたいければB指示せよ」が当てはまっている時でした。研修会では具体例を挙げ、この説明を行いました。研修会は好評だったらしく、無事に終えることができました。

この経験を通して、寺島メソッドは、授業だけでなく部活動においても、教育の現場では必ず効果がある教育技術、教育哲学なのだと痛感しました。今後も寺島メソッドで生徒の力を伸ばしていけるよう、日々の積み重ねを大切にしていきたいと思っています。

< 追記 >

5 3学期小中一貫教育で実施した英語の授業で…

追加での報告です。本校は施設分離型の小中一貫教育に取り組んでおり、毎年3学期には小学生が体験入学を行います。その一つとして中学校の授業を実際に受けるというものがあり、例年であれば数学を体験するわけですが、今年度は英語と数学を25分間ずつ体験することになりました。内容をどうするかを検討した結果、小学生でもHoleのリズム読みができるのではないかと結論に至り、実施してみました。

その日初めて分けられた学級で3人～4人のグループを作り、25分という短い時間でしたが、早いグループは3番までペンで叩きながらリズム読みを行うことができました。小学生が書いた感想では、英語の授業に関する前向きな意見が多く、私自身の手ごたえとしても、小学校でもリズム読みは十分実施できるものだと感じました。

後日談ではありますが、体験入学後、小学校内でも歌っている姿が見られたようで、小学校の先生も驚かされていました。また小学生には、「もし中学校の1・2年生にお兄ちゃんお姉ちゃんがいる人は、6番までやってもらったらいいよ」と授業内で言うってみました。ある2年生男子生徒は、「先生、昨日いきなり弟からHoleを全部リズム読みさせられたんやけど、なんで弟がHole持ってんの？」と聞いてきました。ある程度説明した後で、「まあ、全部言えたけどね。」とまんざらでもない顔で答えていました。兄の面目は保てたようです。

今回小学校の入学体験でリズム読みをしたわけですが、実はもう一つ意図がありました。私の姉が小学校で勤務しており、英語の授業を実際に行う場合、何をしたらいいかわからないという相談を受けていました。本当に小学校の先生は大変です。

しかし、できないからやらないではいけません。また、中学校の英語科教師としても、もし小学生が中学校に入学してきたとき、どんな力がついていけばさらに生徒の力を伸ばしてやれるのか考えると、リズム読みには大きな可能性があるのではないかと考えました。

現段階では姉には寺島メソッドのリズム読みについては説明しておりませんが、今回の体験入学での小学生の姿を見てしまうと、ピアノの周りで、児童がペンを叩きながら英語の歌をリズム読みしている姿が想像できてしまうのです。姉には英語の幹について理解させ、英語の授業をしてほしいと思っています。

6 ALTとの会話で

舞鶴市では毎年スピーチコンテストを実施しています。各学校各学年1名ずつ代表を選出し、各学年のテーマによってスピーチを行います。今年度は1・2年生の原稿をリズム読みで練習させようと思い、ALTにもどこを強く読むかを一緒に考えてもらいました。

その中での会話で印象的だったのが、「小さいころにこういう練習をした」と言っていたことです。やはりリズム読みは英語を話すうえで必ず必要なことだということを再確認できました。またそのALTは「普段意識していないから難しい」とも言っていました。母国語は無意識から意識化へ、外国語は意識化から無意識への言語学習ベクトルがよくわかる瞬間でした。

(一) 樂譜

1

My grandfather's clock

Was too large for the shelf.

So it stood ninety years on the floor;

It was taller by half

Than the old man himself.

Though it weighed not a pennyweight more.

It was bought on the moon

Of the day that he was born.

And was always his treasure and pride.

Chorus 1 :

But it stopped short

Never to go again.

When the old man died

Chorus 2 :

Ninety years without slumbering.

Tick, tock, tick, tock,

His life seconds numbering.

Tick, tock, tick, tock,

It stopped short

Never to go again.

When the old man died.

2

In watching its pendulum

Swing to and fro.

Many hours had he spent while a boy;

And in childhood and manhood

The clock seemed to know.

And to share both his grief and his joy.

For it struck twenty-four

When he entered at the door.

With a blooming and beautiful bride.

Chorus 1 :

But it stopped short

Never to go again.

When the old man died

Chorus 2 :

Ninety years without slumbering.

Tick, tock, tick, tock,

His life seconds numbering.

Tick, tock, tick, tock,

It stopped short

Never to go again.

When the old man died.

3

My grandfather said

That of those he could hire,

Not a servant so faithful he found;

For it wasted no time,

And had but one desire.

At the close of each week to be wound.

And it kept in its place.

Not a frown upon its face,

And its hands never hung by its side.

Chorus 1 :

But it stopped short

Never to go again.

When the old man died

Chorus 2 :

Ninety years without slumbering.

Tick, tock, tick, tock,

His life seconds numbering.

Tick, tock, tick, tock,

It stopped short

Never to go again.

When the old man died.

4

It rang an alarm

In the dead of the night.

An alarm that for years had been dumb;

And we knew that his spirit

Was planning its flight.

That his hour of departure had come.

Still the clock kept the time.

With a soft muffled chime.

As we silently stood by his side.

Chorus 1 :

But it stopped short

Never to go again.

When the old man died

Chorus 2 :

Ninety years without slumbering.

Tick, tock, tick, tock,

His life seconds numbering.

Tick, tock, tick, tock,

It stopped short

Never to go again.

When the old man died.

()月()日 実施 / 提出

Grandfat's Clock 提出 回目

()組 ()番 名前 ()

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

()分()秒

記号付けプリント

() 組 () 番 氏名 ()

(C 347)

問題：動詞に○をつけ、必要に応じて に記入し、否定文・疑問文に直しなさい。

1		【日本語】		
		【基本文】		
2		【否定文】		
		【疑問文】		
		【Yesで】		【Noで】
		【日本語】		
2		【基本文】		
		【否定文】		
		【疑問文】		
		【Yesで】		【Noで】

[文法プリント]Program 7 (1)

Class() No.() Name()

【復習】 (is | reading) ⇒ () ⇒ 「 」

(動詞 ing) 右半マルの意味は「 」 「 」 ☆この知識を使います。

【練習】

英語: I (finished) [reading] a book. 英語: She (likes) [singing] songs.

日本語: () [] . 日本語: () [] .

意味: 「 」 意味: 「 」

☆右半マル(動詞 ing)は「 」の意味になり、「動名詞」と言われますが、進行形で学習した「～して(いる状態)」で考えるとうまく理解することができます。

(1) 日本語に合うように () 内の英語を並べ替えなさい。

① 「私は [テニスを している] (楽しみました)。」 (enjoyed / tennis / I / playing / .)

② 「彼は [コンピュータを 使うのを] (やめました)。」 (He / his / stopped / using / computer / .)

③ 「リサは [数学を 勉強している] (始めました)。」 (Lisa / studying / math / started / .)

(2) 英語の語順訳をしたあとで、日本語にしなさい。

① They (enjoyed) [listening] [to music].

_____ () [] [→ _____].

② [(Studying) math] (is) important.

[()] () _____.

③ He (starts) [cleaning] the cowshed [at four] every morning.

_____ () [] [~に _____].

(3) あなたは何をしている状態が好きですか? 英語で書いてみましょう。

日本語: 私は [_____] を [_____ 状態] を (好む)。

英語: _____ () [_____].

Program 7 – 3 If You Wish to See a Change No.5

Class() No.() Name()

セヴァンさんは、さらに貧困問題についても訴えます。

¹ ^{マハトマ} Mahatma ^{ガンディ} Gandhi ^{ワンス} once ^{セッド} (said),

² [^{ウィッシュ} If you (wish) [^{チェインジ} to (see) a change [in the world]]],

³ you (must | change) yourself first.”

⁴ [^{リオ} When I (was) [in Rio [for the Earth Summit]]],

⁵ I (met) some street children.

⁶ One [of them] (said), ^{リッチ} “^{ゼム} I (want) [to (be) rich].”

ヒント

- 1 Mahatma Gandhi [名]
マハトマ・ガンジー
- once [副] かつて
- said [動] 言った
- 2 if [接] もし～ならば
- wish [動] 望む
- see [動] 見る
- change [名] 変化
- world [名] 世界
- 3 must [助] ～しなければならない
- change [動] 変える
- yourself [代] あなた自身を
- first [副] 最初に
- 4 when [接] いつかと言うと～のとき
- was [動] あった
- Rio [名] リオ (ブラジルの都市)
- Earth Summit [名]
地球環境サミット
- 5 met [動] 会った
- some [形] いくつかの
- street children [名]
ストリートチルドレン (家のない子どもたち)
- 6 one [名] 1
- them [代] 彼ら
- want [動] 望む
- be [動] ～になる, ～である
- rich [形] 豊かな, 金持ちの

(問1) 英語の語順にそって、穴埋めしなさい。

1 _____ (),

² [_____ () [→ _____] _____ [~の _____]]],

³ _____ (|) _____.”

⁴ [_____ () [~の中に _____ [~のために _____]]],

⁵ _____ () _____.

⁶ _____ [~の _____] (), “⁷ _____ () [→ _____].”

(問2) 日本語にしなさい。

1 _____

[² _____

³ _____]

⁴ _____

⁵ _____.

⁶ _____ [⁷ _____]